

アカマツの枯死木上で繁殖したクマタカ

渡辺義明

日本野鳥の会兵庫県支部. 〒671-0208 兵庫県姫路市飾東町八重畑962-2

近年、国内におけるクマタカ *Spizaetus nipalensis* の調査研究が各地で進められている(第1回, 第2回クマタカシンポジウム開催実行委員会 1995, 1996). 著者も兵庫県内におけるクマタカの生息分布の把握を目的として調査を行なっている. その過程で, クマタカがアカマツ *Pinus densiflora* の枯死木上で営巣し, 繁殖に成功したことを観察した. クマタカの枯死木上での繁殖はこれまで福井県での枯死初期の木の利用 2例(久保上・松村 1995)と広島県における 1例(近末 1997)しか報告されていなく, 本調査地域を主にこれまでに観察された25巢のうちこの 1例のみだったので, ここに報告する.

既知のクマタカの営巣地から 4km離れた兵庫県朝来郡で, 1996年 3月にクマタカの生息調査を開始し, 同月に雌雄成鳥と前年生まれと推定される幼鳥の 3羽を目撃した. 雄が幼鳥を追い出す行



図 1. アカマツの枯死木で繁殖したクマタカ

Fig. 1. A pair of Hodgson's Hawk-eagles breeding in a dead Japanese Red Pine.

2002年 9月26日 受理

キーワード: 営巣記録, クマタカ, 枯死木, 兵庫県

動をとったことと、アカマツの枯枝を折って運ぶ行動が観察されたことから、当地が営巣地であるものと推測された。4月、5月に営巣林と推定される場所の観察を続けたが、繁殖行動は確認できず、営巣木の発見もできなかった。

1997年 2月、営巣林と考えられた林の近くに巣立ち後2年目と推定される若いクマタカと成鳥がとまっているのを確認した。3月に雄の巣材運びから、アカマツの枯死木にある巣を確認した。アカマツの葉は枯死初期の赤褐色ではなく脱色した灰色になっていたが、落葉してはいなかった。巣内には雌がいることが確認されたが、その後、4月、5月には繁殖行動がみられず、5月10日にはトビ *Milvus migrans* が巣に出入りしているのを観察した。クマタカは繁殖を中止したものと考えられた。

1998年 2月初めには、巣立ち後 3年目と考えられる若鳥 1羽は営巣林付近で観察されたが、成鳥は観察されなかった。2月下旬から 3月には、成鳥の交尾が観察され、3月末には抱卵や転卵行動が確認された。4月、5月にも成鳥が巣内にいることを確認したので、ヒナが十分に成長したと考えられる 6月末に谷を挟んだ巣の対岸から巣内を観察した。ヒナは羽ばたき練習をするまでに成長しており、7月19日に巣立った。

この時点で、アカマツの枯死はかなり進行していた。地面から立上がった太い幹は、ある高さのところで放射状に 4本の枝に分かれ、巣を支えていたが、1本の枝を残して、ほかはすべて巣の下で朽ち折れており、巣は何とか落下を免れている状態であった。また、巣より上の部分の枝や葉はすべて朽ちて落下していた。

1999、2000年は、つがいは観察されたが、営巣活動は確認されず、2000年には巣材の約半分が落下した。2001年の繁殖期になって、約400m離れたスギ *Cryptomeria japonica* の大木が数本立ち並ぶ斜面で繁殖行動が観察され、7月20日に幼鳥がその近くにとまっているのが確認された。このスギのどれかに営巣していたものと思われたが、枝が密生していたため、2度調査を行なったが巣は確認できなかった。

このアカマツは枯死状態から推定すると、はじめて幼鳥が確認された前年の1995年にはすでに枯死が進んでいたと考えられる。したがって、クマタカは1995年と1998年の 2回、枯死木でヒナを巣立たせることに成功し、2001年に営巣木を変更して繁殖したことになる。

営巣木の枯死によって巣を支える幹や枝が折れて落下する期間は、樹種や大きさ、巣を保持する幹や枝の太さや形状によって異なるものと考えられる。クマタカがどの時点で巣を放棄するのかについては、このつがいの繁殖間隔が 3年に 1回と長かったために詳細は不明だが、クマタカは営巣木が枯死した後も巣に固執し、巣が落下する限界近くまで使用することがあるということがわかった。

この営巣木のある斜面には、ほかにも大きなアカマツやスギ、モミ *Abies firma* が多数生えていた。しかし、クマタカが営巣木として利用しやすい樹形、地形などの条件が良かったことが枯死後も営巣木を変更せずに固執することにつながったのではないかと推察する。

最後に、現地調査には田中次夫氏、短報のまとめには田中希里氏の父子の協力に感謝する。

引用文献

- 第1回クマタカシンポジウム開催実行委員会. 1995. 第1回クマタカシンポジウムproceeding.
 第2回クマタカシンポジウム開催実行委員会. 1996. 第2回クマタカシンポジウムproceeding.
 久保上宗次郎・松村俊幸. 1995. 福井県若狭地方に生息するクマタカの営巣状況. 第1回クマタカシン
 ポジウムproceeding. p. 6. 第1回クマタカシンポジウム開催実行委員会.
 近末訓. 1997. クマタカの営巣木の枯死とヒナの死亡例について. 広島クマタカ生態研究会 クマタカの
 生態 (1): 34.

Breeding of Hodgson's Hawk-eagles in a dead Japanese Red Pine tree

Yoshiaki Watanabe

Hyogo Chapter, Wild Bird Society of Japan. 962-2 Yaebata, Shikito, Himeji, Hyogo 671-0208, Japan

I observed a pair of Hodgson's Hawk-eagles *Spizaetus nipalensis* breeding in a dead Japanese Red Pine *Pinus densiflora* in Asago-gun, Hyogo prefecture.

After the pine tree died in 1995, it was used as a nesting tree from 1995 to 1998. Although they succeeded in breeding twice in these four years, they abandoned this nest and made a new nest in another tree in 2001, approximately 400m away from the red pine.

Key words: breeding, dead tree, Hodgson's Hawk-eagles, Japanese Red Pine, Spizaetus nipalensis